

ダイバーが大阪湾清掃

環境月間にあわせ



濁った海で、タイヤの切れ端を引き上げるダイバー＝大阪市港区

環境月間が始まった1日、大阪市港区の天保山近くの港で、ダイバー30人が海底ごみの清掃活動をした。府内のダイビングショップのスタッフやボランティアダイバー、大阪海上保安監部や海上自衛隊などから参加。透明度が1メートルもない中、タイヤやパラボラ

アンテナ、自転車のかごなど、約250^キのごみを拾い上げた。大阪湾の再生に携わっているNPO法人「環境教育技術振興会(CAN)」の関藤博史代表は「ダイバーとして、身近な海の環境に対して、できることからやっていきたい」と話した。(小林裕幸)